

## (9) 中国



中国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

### 前回からの主要変更点

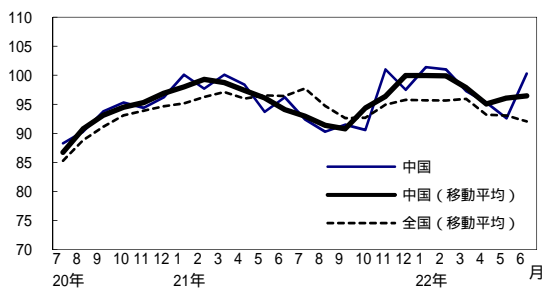
	前回(令和4年6月)	今回(令和4年9月)
景況判断	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる
個人消費	このところ持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

4 - 6月期の鉱工業生産は、輸送機械や汎用・生産用・業務用機械が減少したこと等により、前期比3.8%減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	23.2	5.7	18.2	24.7	17.4	26.6
汎用・生産用・業務用機械	13.3	6.5	6.1	2.7	0.1	1.8
化学	12.2	5.0	6.9	22.0	22.4	16.0
電子部品・デバイス	8.8	4.5	1.5	0.8	2.0	4.8
食料品・たばこ	6.8	2.9	0.6	1.8	5.1	3.7
鉱工業	100.0	3.6	3.8	2.1	2.8	8.3

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。

2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4 - 6月期、6月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

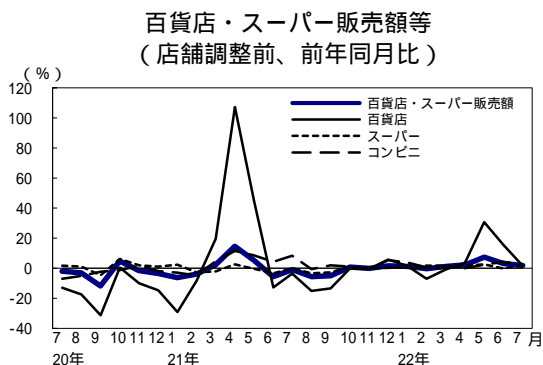
4 - 6月期は前期比2.8%増となった。月別にみると、4月は前月比1.2%増、5月は同2.1%増、6月は同2.6%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4 - 6月期は前年同期比4.2%増となった。月別にみると、4月は前年同月比2.2%増、5月は同7.4%増、6月は同3.1%増となった。

百貨店は、4 - 6月期は前年同期比15.8%増となった。

スーパーは、4 - 6月期は同1.4%増となった。



	2022年		2022年		
	4-6月	4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	2.8	1.2	2.1	2.6	
百貨店・スーパー(*2)	4.2	2.2	7.4	3.1	1.9
百貨店(*2)	15.8	3.6	30.8	15.5	1.7
スーパー(*2)	1.4	1.8	2.5	0.2	2.0
コンビニ(*2)	2.2	0.0	2.4	4.3	2.4
乗用車(*3)	15.0	17.8	19.3	8.3	5.2
(季節調整値)(*3)	1.3	1.6	7.3	10.7	4.7

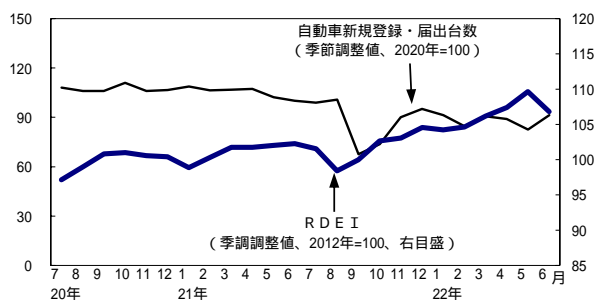
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

2022年7月は速報値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

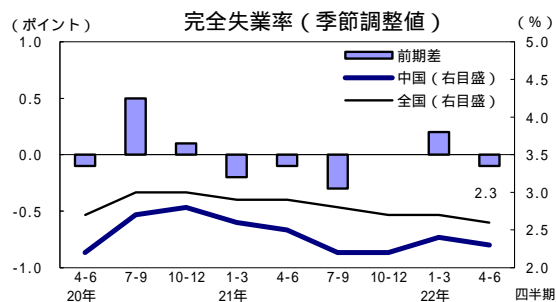
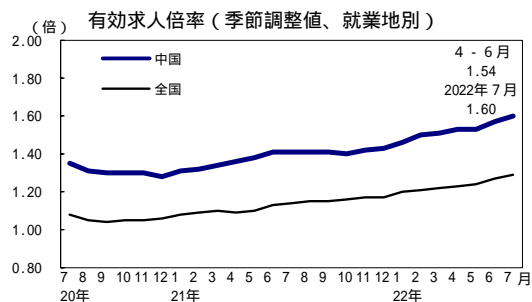
### RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年8月調査）景気判断理由の概要

9. 中国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・行動制限もなくなり、お盆休みを中心に来客数は増加しているが、値上げの影響もあり、購買意欲は低下したままである（スーパー）。
		▲	・8月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増し、コンペのキャンセルが続いている。1組単位の予約も余り伸びがないため、入場者は減少傾向にある（ゴルフ場）。
		○	・3か月前と比べ、新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増加しているが、ウィズコロナが進んでいるため、人々の行動は思ったほど抑制されていない。一時的に来客数が減少したが、すぐに戻ってきている（その他小売 [ショッピングセンター]）。
	企業動向関連	□	・国内需要に増減がなく、中国向けも含め海外需要にも大幅な増減がないため、景気は変化していない（輸送業）。
		○	・異常な暑さ、物価上昇、新型コロナウイルスの感染拡大等により、受注量が5～7%減少し、厳しい状況が続いている（食料品製造業）。
雇用関連	□	・売手市場の状況は変わらないが、提案できる人材も不足しているため、就職決定数が伸びていない（人材派遣会社）。	
	○	・景気は新型コロナウイルス感染症の発生前の水準までには回復していないものの、9割程度までは戻っているという声も聞かれる。反転攻勢を掛ける企業が増加してきており、人材獲得の動きも出ている（民間職業紹介機関）。	
その他の特徴コメント			○：新型コロナウイルスの感染が拡大しているが、販売数に影響はない（その他専門店 [和菓子]）。 □：新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まっており、人の動きがやや停滞気味ではあるが、以前のような自粛感はなく、この3年で人々が新型コロナウイルス感染症に慣れてきた感じがする（タクシー運転手）。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計動向関連	□	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いても、すぐに来客数や売上に反映されにくい状況が続いている。値上げラッシュ等のマイナス要因もあるため、景気回復には時間を要する（百貨店）。
		○	・例年10月以降は秋の観光シーズンとなること、全国旅行支援の実施が検討されていること、インバウンドの水際対策の緩和により入国者数の増加が期待できることなどから、景気はやや良くなる（都市型ホテル）。
	企業動向関連	□	・工場の引き合いが徐々に増加してきているが、人手不足や資材高騰などマイナス要因もあるため、景気は変わらない（建設業）。
		▲	・原材料やエネルギーコストの高騰が収益を圧迫する（非鉄金属製造業）。
	雇用関連	□	・雇用調整助成金の申請件数が前年と比べ、67.6%減少していること、また、求人数が全体的に増加していることなどから、景気は回復している。ただし、新型コロナウイルスの新規感染者数の急激な増加、それに伴う医療体制のひっ迫、食料品等の値上げなどの懸念材料があるため、景気は良くならない（職業安定所）。
その他の特徴コメント			○：現在、客がウィズコロナということで割り切った行動をしているが、今後、更に各種施策が加わることで、需要が拡大していく（旅行代理店）。 □：6月末から新型コロナウイルスの感染第7波の影響が長期にわたって続いており、新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まっているため、景気の先行きは不透明である（テーマパーク）。

(D I) 現状・先行き判断D I（中国）の推移（季節調整値）

